
 学 会 記 事

第 104 回膠原病研究会

日 時 平成 29 年 6 月 6 日 (火)
午後 6 時 30 分～
会 場 新潟大学医学部 有壬記念館

I. 一 般 演 題

1 細線維性糸球体腎炎及び心筋症による腎不全、心不全を合併した Castleman 病にトシリズマブが奏功した 1 例

若松 拓也・和田 庸子・長谷川絵理子
若松 彩子・野澤由貴子・佐藤 弘恵*
中枝 武司・黒田 毅*・中野 正明**
成田 一衛

新潟大学腎・膠原病内科
新潟大学保健管理センター*
新潟大学医学部保健学科**

症例は 50 歳代, 男性。

【現病歴】X-1 年 8 月, 全身倦怠感, 両下肢浮腫を自覚した。9 月, 前医に入院し, 腎機能低下を伴うネフローゼ症候群, 洞不全症候群, 左室拡張不全, 多クローン性免疫グロブリン増加を認め, 右鼠経リンパ節生検で多中心性キャッスルマン病 (MCD) と診断された。X 年 1 月, 当科へ紹介され入院した。腎, 心筋生検組織に HE 染色で淡赤色の無構造沈着物を認め, コンゴレッド及び DFS 染色陰性であったが, 電子顕微鏡で 7-10nm の細線維がランダムに配列し沈着しており, アミロイドが疑われた。PSL 60mg で炎症の改善に乏しく, トシリズマブを開始し, 尿蛋白は持続したが体重減少, 血清 Cr 低下, および血尿の改善を認めた。一方, 経過中に間欠的な心室頻拍が出現し, 植込み型除細動器が留置された。

【考察】MCD などの慢性炎症性疾患に合併す

る AA アミロイドーシスは一般に慢性の経過を取るが, 本例では非典型的なアミロイドの沈着が, 急速に進行する臨床経過に関与したことが考えられた。

2 膝関節に発症した MTX-LPD の 1 例
MTX-associated lymphoproliferative disorder : MTX-LPD at knee joint

阿部 麻美

県立リウマチセンター リウマチ科

関節リウマチ (RA) への MTX はアンカードラッグとして用いられている。副作用としてリンパ腫が多く報告され, MTX 投与下で発生した場合, MTX- 関連リンパ増殖性疾患 (MTX-associated lymphoproliferative disorder : MTX-LPD) と位置づけられている。滑膜に発生した MTX-LPD の 1 例を経験した。

症例は 62 歳, 女性。2004 年 RA 発症, 2005 年 MTX 投与開始, 2007 年 IFX 導入するも投与時反応で 2011 年中止。2012 年 9 月左膝関節腫脹と疼痛による歩行困難があり, 関節穿刺にて黄色, 混濁の関節液採取。関節液の細胞像検査で異型細胞を認め, セルブロックの免疫染色にて悪性リンパ腫が疑われた。全身 CT では, 左膝関節以外に病変なく, MRI で関節水腫と T1 low, T2 low, Gd 造影効果ありの所見を得た。滑膜切除術にて肉眼的には滑膜増生軽度で, 充血した柔らかい腫瘤を認めた。病理学的検査で MTX-LPD と診断された。

MTX-LPD は, MTX 投与による免疫不全状態を基盤に, EBV 感染や再活性化との関連が注目されている。発生部位は, 節性と節外性で消化管, 皮膚, 肺, 軟部組織, 唾液腺, 肝臓などに認められ, 関節内発生は稀である。治療は MTX 中止で寛解する症例が 4 割認められ, EBV 関連症例では寛解が得られやすい。

非常に稀な滑膜に発生した MTX-LPD であったが MTX 休薬, 腫瘤切除にて寛解を得ることができた。